

令和6年度 狭山市立狭山台小学校 学校関係者評価表

※【評価の目安】

- A：よくできている（90%以上）
- B：概ねできている（75%以上）
- C：あまりできていない（60%以上）
- D：できていない（60%未満）

目標領域	番号	評価項目	評価	自己評価説明	学校関係者評価委員から評価(文章表記)
か こ く	1	児童は、相手に聞く声で話したり音読したりしている。	A		・タブレットの音読録画機能の効果は音読に適しているとは思 う。相手に聞く声に関してはやはり対面での体験が重要に思 う。引き続き経過をみたいと感じている。 ・タブレット学習が導入され、手で書くことが減って行くこと が懸念される。小学校時代に身に付けたいことの一つである。 継続的に取り組んでいただいている姿勢がわかる。これからも 粘り強い取組をお願いします。
	2	児童は、文字を丁寧に書いている。 (下書き・消しゴムを上手に使う)	B	・タブレットの音読録画機能を活用し、効果が出ている。 ・丁寧な文字・下書きの有用性など具体的な指導を継続的に 行い、できるときには認めていくことを繰り返す。意識を高 めている。数年先の課題であり、ねばり強く取り組んでいく 必要がある。	・書き初めや硬筆などの取組がしっかり行われており、文字 を丁寧に書く習慣につながっている。宿題や自主学習などもき ちりやられているが、やってこない子のフォローや、底上げ対 策などが難しい。先生の負担がなく、また、子供が前向きに 取り組める工夫を期待したい。
	3	児童は、進んで家庭での学習に取り組んでいる。(塾等での学習を含めて10×学年分)	B	・宿題により家庭学習の習慣を確立している。自主学習の取組には差があるの で、意欲・質の向上を図ってきたい。 ・情報教育部を中心に学校全体に働きかけ、ICT機器の有 効な活用が進んだ。めあての提示、自分まとめ、ふり返りを 意識した授業を展開し、学習内容の定着に努めている。授業 ふり返りシートを活用し、確実に学力の定着や向上に向けた 取組を展開している。(狭山市学力向上「茶レンジ・プラン」 提言5・6に重きを置いた授業への指導改善)	・学年問わず、優れた自主学習ノートを掲示することで児童 の意欲喚起や来校した保護者へ家庭学習定着の啓発が期待 できるので今後も続けていただければと感じる。 ・家庭学習は、家庭の環境、意欲、理解力による差が大き いため、差を縮めていくために、児童のレベルに合わせてモ チベーションを高めるような働きかけが必要と感じる。先 生による宿題提出ノートの賞賛コメントは大変有効と思 う。手間に時間を要する作業だが、大切にしていきたいと思 う。
	4	学校(教員)は、わかりやすい授業に努めている。(めあての明示、児童が自分の言葉でまとめる授業の展開)	A	・教科担任制・学年教科交換を実施し、教材研究が深まり、個別最適 な学びと協働的な学びを意識した授業展開をした。 ・プリント、ドリル、タブレット等を活用し、繰り返し行うこ とで、学習内容の定着に努めている。	・教科担任制、学年内教科交換の推進は、より分る授業の展 開で、特に中、高学年の学習への興味関心が高まること が期待できると考える。今後ともぜひ継続していただければ と感じる。 ・ICT機器を活用した授業、主体的な学びの授業が定着して きているが、機器の操作には得意不得意、家庭で使用でき る環境があるかどうか影響してくると思う。ICT機器の活用 や、主体的な学びが苦手なタイプの児童が授業から取り残 されることがないように配慮していただきたいと思う。
	5	学校は、学習内容が子供に身に付くように努めている。	A		・タブレットのみではなく従来の筆記による反復練習も活 用され、学習効果につながっていると感じる。更には教科担 任制や学年教科交換を国語・算数・理科・社会の主要科目 で行うことで、担任の授業準備の負担軽減や一人の生徒を 複数の教員の視点で見ることができるともメリットも出 てくるので、全学年で積極的に推進してほしい。
か こ く ち ゆ め	6	児童は、自分から目を見て挨拶している。	B		・校内で出会った子どもたちは殆ど元気に笑顔で清々しい 挨拶をしてくれた。また、「安心して過ごせて、楽しい」と思 える学校づくりをなされている先生方の日頃のご指導の賜物 と感じる。
	7	児童は、相手を思いやるやさしい言葉づかいをしている。	B	・大人が率先垂範したり、児童による挨拶運動などを継続 して行ったりすることで、挨拶の大切さを実感させてい る。お話し合い時の生活目標の「明るく」「いつも」「先 に」「続けて」挨拶ができるように意識させている。	・登校見守りや学校訪問時に挨拶が慣れていることを感 じる。朝会、休み時間など見ても、みんな楽しそうにしてい る。 ・挨拶は地域の課題でもあると捉え学校だけでなく地域も 巻き込んだ活動がより高められる可能性があるように感じ ている。挨拶は社会に出ても必要な事だと意識付けして、 粘り強く伝えていく事の中の一つであると思う。
	8	児童は、集団のために活動している。(係活動、当番活動、清掃など)	B	・ふわふわ言葉を意識させ、自分も相手も大切にできる 児童を育てている。懇談会時や便り等で家庭の協力も呼 びかけている。	・挨拶はなぜ大切なのかということも、繰り返し知らせる ことが必要だと思う。家庭でもきちんと挨拶をするこ の必要性を啓発していけると良いと思う。
	9	児童が学校は楽しいと思えている。	A	・「学校が楽しい」と児童・保護者からの肯定的な意見 が多く、日頃の学校経営の成果が表れている。できたこ とを認め、前向きな言葉がけを意識して指導している。た だし、楽しめていない児童もいるので、「笑顔いっぱい 堂かな心よさが輝く楽しい学校」を目指し、一人一人 寄り添って対応していく。	・やさしい言葉づかいは、自分が優しい言葉づかいをさ せてどうだったかという体験が一番理解しやすいと思 う。まずは先生からやさしい言葉づかいを徹底し、マイナ ス言葉もプラス言葉に変換する指導も積極的に行ってほ しいと思う。
	10	児童にいじめを許さない心を育てるとともにいじめの早期発見・早期対応に努める。	A	・いじめ等の防止のために日頃から児童の様子に注 意を払うとともに、年3回のアンケート調査を実施し た。「さわやかあいさつ・やさしい言葉・まじめな行 動・だれもが大得意・いつも元気」という狭山台の 頭文字を取った合言葉をもとに、児童会を中心に挨拶 運動やなかよしタイムなどさまざまな活動に取り組ん だ。	・ふわふわ言葉・愛語は特に家庭での協力も欠かせない ことのように感じる。懇談会時だけでなく、日頃から使 える愛語表や表現を変えて話す一覧なども年間を通して 配ってみるのも一案かなと考えた。
	11	内面を高めていく道徳授業の展開。道徳の実践力を高める指導。	B		・集団のために活動することで自己有用感を高めるこ とにより自己肯定感も高まると思う。行動や成果、目標 に対して努力した過程を認めてひとりひとりの存在を認 める言葉がけをしてほしいと思う。 ・いじめはいついかなる時でもその心理とその背景を理 解して指導をお願いしたい。
	12	学校は、児童が安心して過ごせる環境を作っている。	B		・人権教室などを通して、先生と違う大人と一緒に人権 などについて考える機会を持つことも、児童にとって の様々な気づきの場のひとつとなると思うので、活用 してほしい。 ・働き方改革の影響で児童と教員間のコミュニケーション 不足にならないよう、一層の丁寧な対応をお願いしたい。 ・学校の挨拶運動やふわふわ言葉の取り組みは、児童の 心身の成長に寄与していると感じる。家庭との連携も重 要で、保護者の協力を得ることで、より良い環境が整 う。今後も、全ての児童が楽しめる学校づくりを進 め、いじめ防止に向けた取り組みを強化していくこと を期待する。

たくましく	13	児童は、何事にもあきらめずに最後まで取り組んでいる。	B		<ul style="list-style-type: none"> 児童の帰宅後の遊びの変化を考えると、学校生活においての運動経験や運動量の確保は大事な役割かと考える。今の素晴らしい取組をさらに継続させて、体力の維持向上につなげていただければと感じた。
	14	児童は、進んで運動に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの奨励、体育授業・体育朝会の充実、宿題「体力向上カード」の活用、マラソンカードの活用、業間運動の設定などに取り組み、運動に親しむ環境をつくり、運動の日常化を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの奨励などきめ細やかな声掛けと対応、日々の積み重ねなどと思う。体力向上には欠かせないと思うので引き続きやってほしいと思う。 放課後の外遊びの様子を見る機会があるが、外で座ってゲームをしているだけのことが多く、もっと運動できる遊びの普及も必要ではないかと思う。
	15	児童は、早寝・早起きを朝ごはんを食べながらしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通指導員さんによる交通安全教室を年2回（1年生は3回）実施した。安全な歩行・自転車の乗り方等、継続して指導している。ヘルメット着用について、保護者向け便り等で家庭にも啓発している。学校運動協議会でも、登下校、放課後の交通安全について話し合い、交通安全からわあーサン看板について検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びアイテムを増やして、誰もが校庭に出て遊びたいくなるようにしていく必要がある。例えば、バスケットボールコートにボールをカゴごと置いておいたり、大谷翔平グローブの使い方を教えて、昔ながらの遊び（缶蹴り、ドロケウカ）を先生と一緒にやったりするなど。
	16	児童は、交通ルールを守り、安全な歩行・自転車乗車をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 日常・定期・臨時的な安全点検を行い、その都度対処している。引き続き施設管理、安全指導に努め、校内の学習環境を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動環境の整備や交通安全教育の取組は素晴らしい。特に、保護者への啓発活動が効果的で、地域全体での協力が感じられる。今後も継続的な努力を期待する。 早寝早起き朝ごはんの必要性は、毎年家庭での意識づけが課題だと感じている。給食が一番バランスの取れた食事になる児童もいる中で、その給食が年々食数が少なくなり、質悪くなっていると感じている。給食がもう少し充実することを願う。行政側にも意識し、改善を働きかける必要があると思う。
	17	学校は、体力を向上させるための指導や環境づくりに取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員や学校応援団と共に、生活環境の美化に努め、「花いっぱい」の狭山台をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の安全を守るために、地域側も道路、公園等の危険箇所がないかを意識し把握して積極的に情報共有していく必要がある。子ども110番の家、安全マップ作成などを通じて、地域と校外生活委員の連携を密にしていけると良いと思う。
	18	学校は、児童の安全確保に努めている。（安全指導、清掃、修繕等）	A		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全は子供がルールを守っていても危険に晒されることもあるので、それは大人が考えてあげることがある。学校近くの2車線の幹線道路は歩行者と自転車が分かれていたとしても、またガードレールがしっかりしているとしても、通勤通学時の危険な自転車は多いし、大型トラックの通行量も多いので予期せぬ事故（タイヤが外れるや暴走して歩道に突っ込むなど）も考えなければならない。
	19	学校は、学校公開、授業参観・懇談会、学校だよりや学年だよりなどで学校や教育活動の様子がわかるようにしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、第2土曜日（5・11月）の学校公開の他に、行事・外部講師を招いた授業・体験授業等（稲作、田んぼプール、SDGs（エコキップ）、狂言を学ぶ会、普遊び、子供安全見守り講座、お茶摘み体験・・・）を公開した。また、教育活動の様子、児童の活動や頑張りの様子を便りに写真掲載・スクリーン配信し、学校の様子を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以来、それを理由に行事を減らす傾向にあり、子どもたちの活動が制限されている昨今、台小はPTAや地域の方々の絶大な協力のもと、様々な楽しい取組がなされているのは素晴らしいことだと感じている。それは台小の先生方も日々多忙の中、子どもたちのためにできることをできる範囲でPTAや地域の方々と連携を図ることとわい先先生方のおかげだと感じている。
公開・連携	20	学校は、保護者が教員に相談しやすい環境をつくっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な地域団体の協力を得て、地域と一体となった学校づくりを推進できた。（学校応援団・SSVC・SUP・おやじの会・放課後クラブ・台小マルシェ・地域防犯ネットワーク活動・地域活動等） 	<ul style="list-style-type: none"> とても活発に先生も保護者も体験活動を通して学習の意欲を引き出して様子を配信してくださっていて保護者からも好評だと声が届いている。 PTAや地域会議などとも連携とれており、かなり充実した課外活動ができていて、でもまだまだやれることはあると思うので、自治会、スポーツ少年団とも連携して、考えていきたい。 地域や保護者との連携を取り、多様な体験学習の機会を設けて産学のみではなく児童が主体的に関わる機会を育てようと感じている。
	21	学校は、保護者や地域との連携に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「相談しやすい」と児童・保護者からの肯定的な意見が多く、日頃より丁寧な対応ができていて、スクールカウンセラーやさやまっ子相談員にも相談できる体制を取っている。 会計は、毎学期末、管理職のチェックと、PTA本部役員に監査を依頼し、確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組について、地域との連携や児童・保護者からの肯定的な意見が多いことは非常に素晴らしい。相談しやすい環境が整っていることは、児童の心の健康を支える重要な要素である。今後もこの良好な関係を維持し、さらなる発展を期待する。 地域と一体となった学校づくりのため、学校のニーズをどんどん発信してほしいと思う。地域は子どもたちの成長をどのように支えていくかを学校側と常に連携をとり、具体的な学校のニーズに応えられるような地域の仕組みづくり、人のつながりづくりの機会が大切であると感じる。
	22	学校は、学年・行事等の会計を適切に処理し報告している。	A		<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な家庭に、地域ではどのような支援、サポートができるかを相談し、情報交換できる機会が必要になってくる。 地域学校協働活動については、協働を求める団体への周知がほとんどされていないので、広報活動の必要性を感じる。
	23	全教職員で学校経営方針に基づき組織的に教育活動を進めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で共通理解を回り、組織としてまとまった教育活動ができた。 倫理確立委員会や職業、事故・不祥事防止等チェックリストを繰り返し実施し、高い意識と責任感で業務に取り組んでいる。働き方改革・負担軽減を推進し、やりがいのある職場環境としていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員のチームワークがとてよく保たれていることを感じた。日々様々な出来事があっても、協力、思いやり、やさしさがある職員集団であれば、みんなで乗り越えられるので、今の台小の良い雰囲気を保ちつつ、健康に気を付け、生き生きと仕事ができる環境をこれからも維持していただければと感じた。 若い世代の教員が増えてきたので、従来の指導に縛られない活気ある学校になるよう今後も研鑽を積むとともに、教職員も孤立しないようクラスの問題も連携して共有できる体制づくりもより一層進めてほしい。 それぞれの先生がキャラクターを発揮していると感じる。 学校の教育活動が組織としてまとまり、教職員の意識向上や働き方改革に取り組む姿勢が感じられる。特に、教育的な見方を取り入れた授業づくりは、児童の思考力を育む良い試みと考える。
教職員	24	教職員が組織の一員として自分のよさを発揮して勤務している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研究として「考える力を身に付け、表現できる児童の育成～数学的な見方・考え方を取り入れた算数科の授業づくり～」に取り組む。2月に研究発表を行った。教職員が互いに学び合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員同士の意識を高め、研修などに取り組んでいる姿勢もとても素晴らしいことだと思う。ご近所から遠くまで電気が付いていることがある話していることでもあるので、引き続き負担軽減など一緒に考えて行けるよう体制を考えたいと思う。
	25	教職員が積極的に研修に取り組むとともに、自己研鑽に努めている。	B		<ul style="list-style-type: none"> 先生の働き方改革・負担軽減の推進は必要だが、教員不足や個別に対応が必要がある児童（家庭）が増えている影響で、先生方の精神的・身体的負担は相変わらず大きいのではないかと感じている。先生が子どもたちとしっかりと向き合えるように、まずは先生方の心身共に健康が守られるような職場環境を整えていきたいと思う。 教職員の研修や自己研鑽の機会を増やすには、現場の教職員の増員が必要ではないかと思う。市、県レベルで考えていかなければならない課題かと考える。